

TT等を活用した指導方法の工夫改善と学力の向上を図る取組

札幌市立屯田中央中学校

I 取組の重点

指導方法の工夫
改善と学力向上
を図る取組

1 学校改善テーマ

「退職教員等外部人材活用事業」による非常勤講師の配置を活用した数学科における指導方法の工夫改善を図り、これを契機として教科指導における校内研修体制の強化と、全校体制のもと学力向上のための授業改善を実践する。

2 テーマの意図

平成 19 年度に実施した全国学力・学習状況調査の結果から、本校の数学における領域ごとの傾向を把握するため、「主として『知識』に関する問題A」及び「主として『活用』に関する問題B」について、本校の平均正答率と全国平均を比較するなどしながら、詳細にわたる分析を行った。

この分析結果をもとに、本校の数学における課題を次のように設定し、指導方法の工夫改善を図るとともに、効果的・効率的な指導体制の確立を目指すこととした。

基礎基本の定着

個に応じた指導
の充実

- ① 基礎基本の一層の定着
- ② 個に応じた指導の充実

また、同時に上記課題は、数学科のみならず全ての教科においても共通した課題であることを全教員が認識し、全校体制で取り組むこととし、次の共通課題を設定する。

- ① 教科指導力の向上 → 校内研修の充実
- ② 家庭学習習慣の一層の定着 → 家庭との連携強化

授業改善の資料

学校評価への活
用

生徒へのフィード
バック

情報の提供

3 本校における全国学力・学習状況調査等の活用の進め方

- (1) 学力の把握と授業改善への資料として～校内研修の充実
 - ・本校生徒の学力把握の資料として活用し、各教科における授業改善に役立てる。
- (2) 学校評価における指標の一つとして～検証・改善サイクル
 - ・学力調査の結果が発表され次第、各教科で分析。適宜活用し改善の方向を検討するとともに、学校評価年度末反省においては、改善実施計画を策定する。
- (3) 生徒への指導資料として
 - ・質問紙調査については、生徒の日常における学習指導資料として、教育相談活動等で活用する。
- (4) 家庭への啓発資料として
 - ・保護者へ情報を提供し、家庭学習、基本的な学習習慣の確立に役立てる。

II 取組の具体化

1 本校における学力・学習状況に関する課題～全国学力・学習状況調査等から

基礎基本の定着
に課題

(1) 基礎・基本の一層の定着

- ・『主として「知識」に関する問題（A）』の平均正答率が、国語科及び数学科におけるほぼ全ての区分及び領域で、全国平均をやや下回ることから、基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分である状況が顕著であり、このことが、生徒の「つまずき」の原因となっているものと考えられる。

個に応じた指導
の充実に課題

(2) 個に応じた指導の充実

- ・『主として「活用」に関する問題（B）』の平均正答率が、国語科及び数学科におけるほぼ全ての区分及び領域で、全国平均をやや下回ることから、生徒が身に付けた基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る指導に加えて、個人差に対応する指導の充実が課題であると考えられる。

家庭学習習慣の
定着に課題

(3) 教科指導力の向上

- ・全国学力・学習状況調査の結果から、国語科及び数学科のみならず、全ての教科において、基礎的な学力の定着が不十分であることを認識し、全教員の共通理解のもと、全校体制で教科指導力の向上を目指す取組が必要であると考えられる。

(4) 家庭学習習慣の一層の定着

- ・全国学力・学習状況調査における質問紙調査の結果から、家庭学習が十分に成されていない現状を読み取ることができる。学力の向上のためには、家庭学習の習慣を一層定着させることが不可欠であり、家庭と連携した取組が必要であると考えられる。

2 改善策の具体化

「退職教員等外部人材活用事業」による数学科非常勤講師の配置を最大限活用するために、次の取組を改善策として実施する。

T T 授業の実施
とその充実

(1) 数学科における T T 授業の実施

- ・基礎学力の定着度と学習意欲に個人差が大きくなる傾向が見られる 2 学年において、単元に応じて T T で実施するなど、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。

選択履修幅の拡大
と少人数指導

(2) 選択教科における個に応じた指導の充実

- ・選択教科を開設するにあたり、数学科のコース数を増設し、少人数指導の中で、個に応じた指導の充実を図るとともに、基礎・基本の一層の定着を図る。

また、学力向上のために次の取組を全教員の共通理解のもと、全校体制で推進する。

校内研修の充実

(1) 教科指導における校内研修体制の強化

- ・「基礎基本の定着」を校内研修テーマに設定し、各教科で授業交流を行い、指導方法の工夫改善を推進する。
- ・時間割に教科会を設定することにより、教科会の充実を図るとともに、進度や指導内容の確認、指導案の交流等による日常の研鑽に努める。
- ・数学科と他の T T 実施教科（本校＝音楽科と英語科～指導方法工夫改善加配）との交流の場を探り、より効果的効率的な T T 指導の在り方を検討する。

家庭との連携

(2) 家庭学習の定着に向けた保護者との連携

- ・各種便りや P T A 集会において、家庭学習の重要性と必要性について啓発に努める。

Ⅲ 取組例の実際

1 数学科 T T 授業の取組から

(1) 個人差の把握

- ・定期テスト、単元テストの結果からはもちろんのこと、授業中の机間指導によるノートチェックや授業後の確認プリント等を通じ、個人差を適切に把握し、より効果的効率的な個別指導のための資料とする。

(2) 繰り返し指導の重視

- ・授業終了前の短時間を利用して演習、計算練習のドリル的な問題を行う。本時の学習事項の確認よりも、基礎・基本の定着を目指し、繰り返し練習することに重点をおき行う。

(3) 個別指導によるサポート

- ・演習、計算練習中においては、T1・T2ともに机間指導を積極的に行い、主として基礎学力の定着度が十分でない生徒に対して、その場、或いは授業後の時間を用い、個別指導によるサポートを実施する。

(4) 数学的な表現を用いる説明への対応

- ・基礎的・基本的な知識・技能の活用を図るための指導として、例えば、数学科においては、数学的な表現を用いて説明する機会を設定する。小グループを作り、話し手、聞き手の立場を設定しての学習活動において、T Tを活用することで個々のグループに時間をかけた細かな指導が可能となる。

(5) 小テスト～T2が授業時間内に採点し返却

- ・複数の教師で、生徒一人一人の学習状況に応じて指導できることがT Tのよさである。小テスト等を行った際に、T2が即座に採点し、その結果と誤りを知らせ解説も行う。疑問点一つ一つを、時間を経ずに解消することが「つまずき」克服の一助となる。



T T 授業の効果的効率的な実施のために

2 数学科選択教科の授業の取組から

全ての選択授業において、5学級7コース展開の少人数指導とし、個に応じた学習指導を実施する。

(1) 2・3学年補充的学習コース

- ・2学年及び3学年で、1学年からの内容で復習を中心に、ドリル的な計算や演習問題を繰り返し、基礎基本の定着を図る。

(2) 3学年発展的学習コース

- ・活用、応用を主体とした発展的学習内容を中心として、個人差に応じた学力の向上を図る。



選択教科の授業における基礎基本の定着と個に応じた指導

3 放課後の補充的学習の取組から

希望者を募り、放課後の時間を利用して積極的に補充的学習を実施する。

- ・定期テストを返却する際、正答の確認とともに解き方、考え方の説明を行っているが、どうしても誤りの多かった箇所を中心とした解説となる。点数に差が生じている分、説明を求める箇所も違うはずだが、十分な対応時

補充的学習の取組

間を確保することは困難である。そこで、テスト返却後の放課後、空き教室を利用し、希望者対象の「誤答やり直しノート」作成時間を設けている。

- ・学期に一度設定されている教育相談週間、また学期末に行われる懇談等、限られた時間の話し合いとなるため、放課後に待ち時間が生じる。わずかな時間ではあるが、このような短時間でも可能な基礎・基本に関わる問題を用意し、補足的な学習時間にあてている。

保護者との連携強化のために

4 保護者との連携強化の取組から

(1) 家庭学習の定着のための取組

- ・学校便りやPTA便り、各種PTA集会等において、保護者に対し、生徒の学習面での状況を伝え、家庭学習の必要性や読書習慣づくりについての啓発を積極的に行った。

(2) 学校評価への活用の取組

- ・昨年度の学校評価における「保護者アンケート」を通して、前述した「基礎基本の定着」「個に応じた指導の充実」「教科指導力の向上」などに関する取組を掲げ、指導方法の工夫改善を図っている。

IV 研究の成果と課題

研究の成果

1 本校の取組における成果

- ・数学科におけるTTを活用した授業によって、主に習熟の程度が十分ではない生徒に対して、「つまずき」の克服により達成感をもたせることで学習意欲の向上が見られた。小テストや定期テスト等の結果からも、徐々にではあるが、基礎・基本の定着が見られている。また、数学科の選択授業において、少人数指導など個に応じた指導の取組により、基礎・基本の定着と応用力の向上が見られている。
- ・放課後に実施した補足的な学習については、生徒の疑問が解消され、「わかる」ことがさらなる学習意欲の向上へと繋がっていた。
- ・保護者との連携については、学校と家庭において課題の共有が図られてきており、課題解決に向けての協力関係が築かれつつあるととらえている。
- ・校内研修における指導方法工夫改善のための教科会の充実、校内研修会における交流等により、授業改善の意識が高まってきた。今後も継続し、より一層の指導力の向上に努めていくこととしたい。

今後の課題

2 本校の取組における今後の課題

- ・より効果的な授業の構築のために、TTを活用した習熟度別少人数指導の導入を検討する必要がある。また、数学科の選択授業についても、選択教科の授業時数の削減への対応から、今後は個に応じた指導を各教科の授業の中で充実させるための工夫が求められる。
- ・放課後に実施した補足的な学習については、学習意欲が十分ではない生徒や補足的な学習が必要な生徒を、どのようにして自主的に参加させるかという手だての工夫が求められる。
- ・保護者との連携については、家庭での学習習慣の一層の確立のためには、さらなる連携の強化と「自ら学ぶ意欲」の向上に向けた手だての工夫が求められる。今後とも「分かる、できる、楽しい」授業の構築を目指していく必要がある。
- ・校内研修によって、教師の授業改善の意識が高まってきたところであるが、取組の成果として、生徒の基礎・基本の定着に結び付いているかについて、十分に検証を行う必要がある。